

## 【実践報告】

# 学校栄養教育実習Ⅱの報告

広島文教女子大学人間科学部

人間栄養学科 講師 塩 田 良 子

## 1 はじめに

栄養教諭一種免許状の取得を希望する教職課程履修学生を対象とした教育実習は、授業科目「学校栄養教育実習Ⅱ」に含まれる。本実習は栄養教諭としての修得すべき知識・技術に関する内容が中心となる小学校等での教育の現場で行うものであり、その目的は、栄養教諭としての使命感を自覚し、職務内容について理解を深め、教育に関する資質と栄養に関する専門性を育成することである。

## 2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学習 (学内)	4月～5月	<ul style="list-style-type: none"><li>・本実習の意義、目的、心構え等を再確認する。</li><li>・実習校への事前訪問により、指導教諭等の指導担当者から、担当となる学級の児童・生徒の実態や、食に関する指導の全体計画、実習の事前課題を確認する。</li><li>・実習校より出された課題について、模擬授業や給食指導、展示物の作成等を行う。作成物についてお互いに評価し合い、よりよい授業・教材になるよう工夫を重ねる。</li></ul>
本実習 5日間 (学外)	6月	<ul style="list-style-type: none"><li>・実習の内容は実習校により計画される。主な内容として、①指導教諭等からの学校・学級経営の説明、②児童及び生徒への個別的な相談、指導の実習、③児童及び生徒への教科・特別活動における指導の実習、④食に関する指導の連携・調整の実習が挙げられる。</li><li>・実習中は教育実習日誌等の記録をつけ、栄養教諭の役割・業務等について理解を深める。</li></ul>
事後学習 (学内)	6月～7月 9月 報告会は 9/22に実施	<ul style="list-style-type: none"><li>・各自の実習を振り返り、記録をまとめる。</li><li>・各自の実習内容についての報告会を実施する。報告会では、与えられた課題の取り組みを通して学んだことや研究授業の紹介等について発表する。</li></ul>

## 3 活動の概要

(1) 研究授業（学級活動）の主なテーマ等（学生の報告資料より抜粋）

テーマ	対象	ねらい
バランスの良い朝ごはんを食べよう！	3年生	<ul style="list-style-type: none"><li>・朝食の3つの働きを理解する。</li><li>・栄養バランスのとれた朝食を考え、バランスの良い朝食を毎日食べるようにする意欲をもつ。</li></ul>

やさいパワーを知ろう！	3年生	野菜を摂取することで身体の健康にどのように繋がるかを知り、野菜を積極的に食べようという意欲をもつ。
バランスよく食べるために自分にできることを考えよう	3年生	給食がバランスを考えて作られていることを理解し、残さず食べようとする意欲をもつ。
食材の切り方を考えよう	5年生	食材の切り方の違いを学び、食材や調理者への感謝の気持ち、楽しんで食事をしようとする意欲をもつ。
3つのスイッチがオンになる朝ごはんを考えよう（仮）	3年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝ごはんの効果や役割を理解する。</li> <li>・黄・赤・緑の食品を取り入れることを意識して、毎日バランスのとれた朝ごはんをとるように食べようとする意欲をもつ。</li> </ul>

## （2）教育実習を通して学んだこと（学生の報告資料より抜粋）

- ・目標としていた内容は資料や講話等をいただくことで学ぶことができる内容でした。しかし、実際に学ぶべきことは児童の実態把握であったと実習を通して気づきました。児童の実態を直接児童と関わる中で感じ、実習課題と結びつけ、授業を展開しなければならないと感じました。また、食に関する全体計画の立て方、職員との連携や保護者や地域との連携の図り方について学ぶのではなく、自分ならどのようにするか置き換えて実習に望むべきであったと反省しました。
- ・授業の時間配分を考える際は、児童が考えたり、発表したりする時間を十分確保する必要があることを学びました。
- ・授業中に児童の集中力を維持させるためには、児童の興味をひくような仕掛けや工夫をした教材、写真やイラストなどを用いることが必要であることを学びました。
- ・教師の言動が児童に大きな影響を与えるため、丁寧な言葉づかいに気を付けることを学びました。
- ・栄養教諭は学校給食の責任者と子どもを育てる教育者の2つの役割があり、良好な人間関係を築くことが重要だと感じました。学校全体で共通認識をもち取り組むことで食に関する指導を継続的に行われることを実感しました。

## 4 成果と課題

実習に臨むにあたり、実習生自身が立てた目標には、栄養教諭がどのように教育現場、給食現場に関わっているのか、よりよい授業を行うための技術や指示の出し方を学ぶこと、が主であった。そのことについてしっかり学んできたようであったが、最も重要だと実感したこととして、「実態把握」「実態に応じた指導」を全員があげた。学内での授業においてそのことについて、知識としては修得していたが、学内の授業では伝えきれない部分が大きく、現場での実習で学生が修得してくるものの大きさを感じた。

報告会では、自身の学修の総括、後輩たちへの伝達が簡潔にまとめられ、学ぶ姿勢だけではなく、得たものを次につなげる姿勢が見受けられた。実習で学んでくるものが多い分、学内の事後指導を充実させ、有益な情報交換の場となるよう努めることも重要である。